

2021年度 前期・春学期オンライン授業に関するアンケート結果概要（学部学生）

3回目となる「オンライン授業に関するアンケート」を実施いたしました。
混乱や不満が多く見受けられた1回目からすると、オンライン授業ならではの良さを学生の皆さんも実感している様子がみとれる結果となりました。問題点を解決していくため、また今後のより良いオンライン授業のために、ご活用いただければ幸いです。

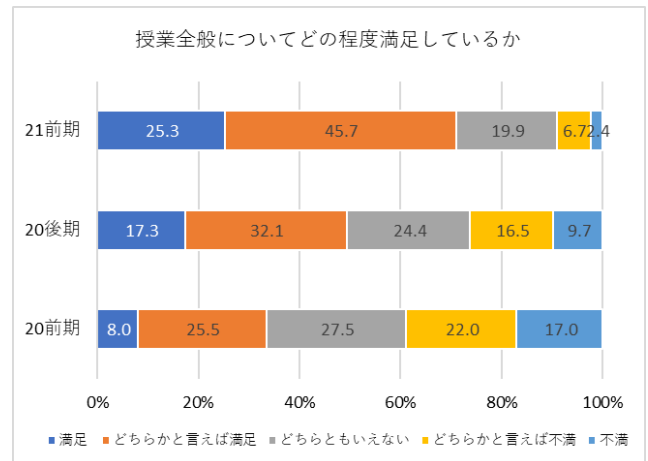
【調査の概要】

- ・実施期間：2021年7月24日～8月17日
- ・対象：学部学生(平均回答時間/5分30秒)
- ・回答者数 5703人（調査対象者に占める回答者の割合：22.8%
（参考）前回までの回答者割合 2020年後期23.2%・前期13.2%

UPI↑授業満足度20ポイント以上UP

肯定的回答の学生が7割

「前期の授業全般についてどの程度満足しているか」という質問に対し「満足」「どちらかと言えば満足」と肯定的に答えた学生の割合は、前回(2020年後期)から、20ポイント以上増加した(49.4→71%)。学年・学部別の集計でも傾向は変わらなかった。



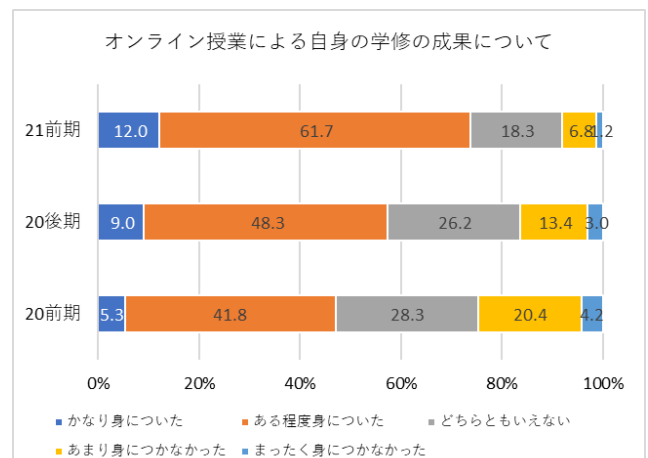
UPI↑学修成果「身についた」15ポイント以上UP

「身についた」「ある程度身についた」肯定的回答が15ポイント以上UP

「学修の成果について」という質問で「かなり身についた」「ある程度身についた」と肯定的に答えた学生の割合も、前回から15ポイント以上増加した(57.3→73.7%)。

学習時間微増

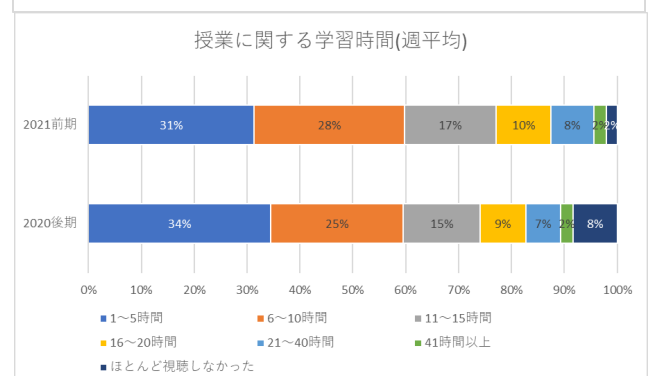
「授業に関する学習(予習・復習・ゼミ活動・課題など)に平均週何時間くらい取り組みましたか」と聞いた質問の結果を前回から比較すると、「週1～5時間」が一番多い群なのは変わらないが、34→31%とやや減少している。逆に「6～10時間」25→28%と3ポイント増、「11～15時間」15→17%で2ポイント増、それ以上の群もそれぞれ1ポイント程度ずつだが増加がみられる。



課題が増えて学習時間が増加？

「オンライン授業の受講および課題提出の時間的負担について」聞いた質問では、「かなり負担」「ある程度負担」と答えた人が56%を占めた。

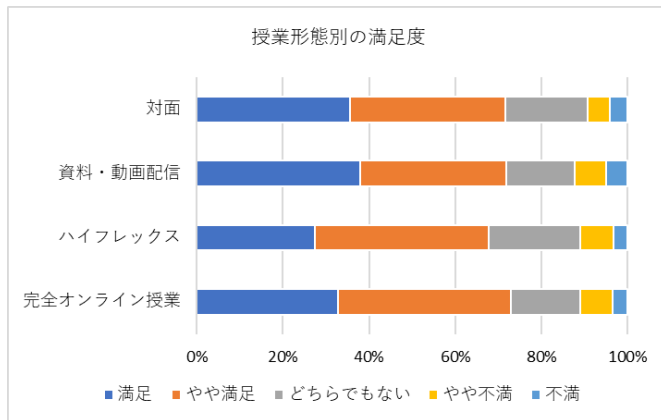
コロナ禍以前に比べ、レポート課題が増えた負担感はかなり多くの学生が感じているが、そのことにより学習時間が増加し、それが本人の「身についた」実感につながっているのではないかと推察される。



授業形態別の満足度

授業形態を4つに区分し、それぞれの満足度を聞いた。一番肯定的な回答が多かったのは完全オンライン授業だったが、次点の資料・動画配信授業、対面授業と、さほど大きな差はなかった。

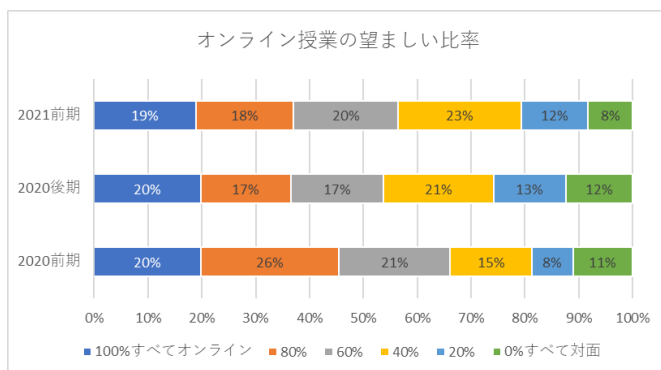
ハイフレックスのみ、他の群と比較してやや肯定的意見が少なかった(グラフは「体験しなかった」を除いて作成)。



対面授業とオンライン授業の望ましい割合は

ややオンライン寄りだが大きな偏りなし、個人による？

対面授業とオンライン授業の望ましい割合を聞いた設問では、前回より全対面を望む学生が微減(12→8%)。一番多かったのは「40%オンライン」の23%。全体で見ると、オンライン授業割合が多い群がやや優勢のようだが、そこまでの大きな偏りはない。自由記述をみても「すべて対面授業にするべきだ」「オンライン授業の方が良い」という正反対な意見がそれぞれ一定数あり、望ましい授業形態、またその望ましい比率は個人によってかなり異なるようだ。



コロナ対策情報経路、トップはCplus

「情報を受け取れていた」9割、残り1割にどう届けるか

新型コロナウイルス感染症対策に関する情報を受け取れていたかという設問では、「はい」91.4%、「いいえ」8.6%だった。ほとんどの学生に情報は届いているようだが、届いていない残り1割に、どのようにして届けるかが大きな課題である。

情報の受け取り経路、多いのはCplusと事務室からのメール

情報の受け取り経路(主なものを3つ選択)をきいたところ、一番多かったのは「Cplusのお知らせ」、ついで事務室からのメール、manabaコース、公式Webサイトの順であった。

その他には「どこから受け取れるのか分からない」「学科内に感染者が出たときに連絡があったりなかったりするの困った」等の記述があった。

